

## 主の洗礼（1月11日）

### 〔説教〕

今日は、降誕節の最終日です。私たちは、この日、「主の洗礼」の祝日を祝います。神の御子は、人間となって、私たちを救うために、「洗礼」を受けられたということを記念します。主イエスが、私たちのために洗礼を受けられたことに感謝します。

福音記者マタイが伝えているように、神の御子イエスは、洗礼を受けられた時、聖霊が「ご自分の上に降ってくるのを」体験されました。そして、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という御父の言葉を受けられました。主イエスは、私たちと同じ人間です。ですから、主は、洗礼を受けられることで、私たちに人間に、聖霊といういのちが与えていること、私たちが皆、神から愛されている者であることを明らかにされました。福音書が記している、「ご覧になった」、「聞こえた」という言葉は、洗礼を受けることで明らかになったということを表しています。洗礼を受けたから、神のいのちが与えられ、神から愛される子とされたということではありません。洗礼によって、こうした恵みが明らかになったということです。

私たちは、人間である限り、洗礼を受けているか否かに関係なく、神のいのちである聖霊を与えられています。すべての人は、神に深く愛されています。洗礼によって、私たちは、神からいただいている恵みに感謝できるようになるのです。神から愛されていることに、神に生かされていることに喜びを感じることができるようになるのです。神から大きな恵みをいただいても、それに気づかなければ、救われているとは言えません。愛されていることを知り、感謝できる時、本当の意味で愛されていると言うことができます。人間とは、神に生かされ、愛されている存在なのです。この真理を信じるのが信仰であり、この真理を喜ぶことができる時、本当に救われていることになるのです。主イエスは、ご自分が洗礼を受けられることで、人間であることの真理を明らかにされたのです。

洗礼を受けている私たちは、自分が救われていることに喜んでいれば良いのでしょうか。もし、自分が救われていることだけで満足しているならば、洗礼の恵みを十分に体験していないことになると思います。洗礼の恵みは、私たちに、この恵みをまわりの人と分かち合うように促す、励ます恵みです。神の「心に適う」生き方とは、神からの恵みに感謝し、神の恵みを分かち合いながら生きていくということなのです。

そのために、まず、私たちは、祈りをささげます。すべての人が、自分が愛されていることに気づくように、祈り求めます。長い祈りでなくてもかまいません。毎日でなくてもかまいません。思うように祈れなくても、祈りたいと思いつけます。こうした思いこそが、最も尊い祈りなのです。

さらに、洗礼を受けている私たちは、日々出会う人に、一人一人が大切な存在であることを伝えるように招かれています。「あなたは神からされている大切な人です」と、直接、言葉で伝えることだけが、神の愛を伝えることではありません。沈黙を保つことが、愛を伝えることになることもあります。自分に語りかけてくる人に、じっと耳を傾けることは、神の愛を伝える行いです。必死になって生きている人を、静かに見守ることは、その人が気づかなくても、愛を伝えています。気づかれない愛こそ、大きな愛なのではないでしょうか。実際、私たちも、神の愛に気づかない時が多いと思います。神や隣人の愛に気づかず、自分の愛を、神は、まわりの人はわかってくれない。そのように思いこんでしまう自分のことを振り返れば、よくわかると思います。

そして、洗礼の恵みは、私たちが、洗礼を受けているか否かに関係なく、いのちのつながりの中で、支え合い、助け合いながら生きていることを、生かされていることを、私たちに思い起こさせます。洗礼を受けることは、共同体の一員になるということなのです。洗礼は、教会という共同体の中で、人類という共同体の中で、地球という共同体の中で、生きていることを思い起こさせます。洗礼の恵みとは、いのちのつながりの中で生きている喜びなのです。今、この世界では、この喜びを奪うような出来事が起こっています。だからこそ、洗礼を受けている私たちは、神の愛、いのちのつながりという愛を伝えていきたいのです。洗礼を受けた者は、自分だけが救われても幸せになりません。皆で救われことにしか、本当の幸いを見い出すことができないのです。

私たちの救い主は、洗礼を受けられることで、いのちのつながりという共同体の一員になられ、今も、今こそ、私たちとともに生きておられます。私たちも、明日から、主イエスとともに、神の愛を宣べ伝えていきたいと思ひます。洗礼の恵みを喜びを分かち合いながら、ともに歩んでいきたいと思ひます。